

社団法人日本超音波医学会第 79 回学術集会を終えて

会長 田中 幸子（大阪府立成人病センター検診部）

社団法人日本超音波医学会第 79 回学術集会を 2006 年 5 月 26 日（金）-28 日（日）の 3 日間、大阪国際会議場において開催致しました。循環器、消化器、産婦人科、泌尿器科、乳腺・甲状腺、眼科、整形外科、皮膚科など各領域の医師、検査技師および理工学者など 2800 名余が一堂に会し活発な討議が行なわれました。

30 年間専ら超音波診療に携わってきた者として学術集会を担当させていただきましたことは大変光栄と存じます。1988 年の第 53 回（北村次男会長）以来 18 年ぶりの大阪開催ということもあり、有意義な学術集会にさせていただきたいと強い責任を感じつつ準備を進めてまいりました。開催に当たりましては関西を中心に 11 名の顧問、19 名の実行委員および、2 名のアドバイザーの先生方よりなる実行委員会を組織いたしました。ご経験に基づき様々なアドバイスをいただきましたことを感謝致しております。また、実際のプログラム作成やライブのリハーサルなどにご協力いただいたプログラム委員その他の先生方に深く感謝致します。

特別企画につきましては、まず名誉会員、功労会員、評議員の先生方にアンケートを送らせていただきました。その結果、多数の方から 100 件を超えるご提案と多くの貴重なご意見をいただくことができました。メンバーの方々の超音波医学に対する深い思いいれを感じ大変うれしく思った次第です。採用できなかったご提案も多くありましたことをこの場を借りてお詫び申し上げます。



写真 1 事務局一同

日本超音波医学会の特徴は理工学系の研究者、技術者と、ユーザーである臨床の医師、技師といった幅広い人々が参加していることです。日本医学会の一分科会として、医師が中心であることはいうまでもありませんが、臨床医師の中にも超音波医学に対する造詣が深く新技術の開発に関心の高い方と超音波を用いた診療手技に専ら関心の高い方が含まれています。このような多様なニーズに合わせて多彩な企画をと心がけました。その結果、特別講演、教育講演各 1 題の他、シンポジウム 10 題、パネルディスカッション 7 題、ワークショップ 5 題など大変盛りだくさんの特別企画となりました。

今回、メインテーマは“普遍性の確立とさらなる飛躍を求めて”とさせていただきました。“超音波は検者依存性が高く客観性に乏しい云々”と常々評価されることの残念さを何とか払拭したいという思い、そして、さらに新しい方向への広がりを求めたいという私の思いをそのままテーマとしたものです。ポスターのデザインも自分で考案しました。



写真 2 パーチャルライブ会場

このメインテーマのもとに、以下の5つのサブテーマを取り上げました。

- 超音波診断の客観的評価
- 安全・快適な Interventional Sonography
- 超音波医工学のブレークスルー
- 超音波による治療の展望
- 超音波ドプラ効果の臨床応用 50 周年を記念して

“超音波診断の客観的評価”については、多施設共同研究による超音波診断成績をシンポジウムとしてとりあげました。造影エコー診断および組織弾性映像法に関して7演題と予想以上の演題応募があり、それぞれに大変な努力と労力をかけての研究成績をご発表いただきました。しかし、今回の学術集会までにはまだ全ての成績が出揃っていないグループもあり引き続きの継続研究が期待されました。また、共同研究によるエビデンスの確立には撮影条件などのかなり厳しい制約が必要であることも感じられました。今回の企画が契機となり、客観的評価に対する関心が高まればそれなりの意義があったものと考えています。

また、日常の超音波診断手技および超音波ガイド下穿刺などを伴う Interventional Sonography の手技向上を目的としたバーチャルライブも行ないました。会期の3日間、学術展示場の一角に設けた600席の会場にて、実際の検査室に近い環境を演出し、経験豊富な先生方に実技をご披露いただきました。展示企業の方々にも多大のご協力をいただき、大変好評であったと思います。

International Symposium では “Breakthroughs in Medical Ultrasonics for the next Decade” というテ-

マで、世界的にご活躍中の医学系、工学系の先生方を海外からもお招きし、10年後の超音波医学の発展につながる夢のある講演をお願いしました。Part I : Bubbes and Ultrasound では微小気泡と超音波照射を組み合わせた Molecular imaging や Drug Delivery など再生医療やがんの治療にも直結する話題について、研究成果を提示しながら講演されました。夢の実現化に向けての具体的な歩みを感じ取る事ができました。Part II : Ultrasound Technology ではユビキタス超音波装置や弾性イメージなど超音波の新しいテクノロジーをご紹介いただきました。また、Part III : Special Lecture では WFUMB の President もされた Barry B Goldberg 先生による Medical Ultrasound の来し方、行く末といった示唆に富むご講演をいただきました。

さらに、“超音波ドプラ法の臨床医学への応用” 50 周年記念特別講演を仁村泰治先生にお願いし、別府慎太郎先生の監修による記念展示も行ないました。

今回の学術集会の日程は、2週前の日本超音波検査学会（奈良）、直後の WFUMB2006（ソウル）その他いくつかの学会が重なったため、多数の方がご参加下さるだろうかと直前まで大変心配致しました。しかし、実際には2800名余の方にご参加いただきました。しかも、あいにくの雨模様の3日間であったためか、会場内は常に人があふれ発表に討議にと積極的で熱心なご参加が目立ちました。

超音波を用いた、積極的で人にやさしい医療が着実に進歩普及しつつあること、応用範囲がさらに広がつつあることを確信できた3日間の学術集会でした。